

風の中の三斗小屋

那須・三斗小屋温泉 (2023/10/15-16)

H口、H麻

H麻が月曜日に休みが取れるというので日月の一泊二日で三斗小屋温泉へ行くことにした。紅葉シーズンで宿が混む時期であったが、うまいことに二軒ある旅館のうち大黒屋旅館の方で予約を取ることができた。それにしても10月になってもまだまだ暑い日が続く今年、いい具合の色合いに紅葉した景色が見られるだろうか。

三斗小屋温泉に行くと言ってもそこは我々も山の会の会員としてただ温泉に行くだけでなく、茶臼岳、朝日岳といった本格的な山登りを含めての山行とするつもりだ。

穏やかな登山日和が続いていたが、どうしたことかその日月に限っててんくらの予報にCが付いた。低気圧が移動して来るらしい。

低気圧は二つ玉のため雨風が強いようだ。ぎりぎりまで様子を見ていたが日曜は風速6m、月曜は風速15mだと言う。H麻が「やめた方がいいんじゃない」と言い出した。山の会の仲間も明日の山行を中止にしている。せっかく取れた三斗小屋温泉の宿だが僕も観念してキャンセルの電話を掛けてみた。しかしそれは22時過ぎの事、さすがに電話は通じなかった。明日の朝、一番で掛けてみよう。

「三斗小屋は無理だけど、どうせならどこかの温泉に行かない」とH麻に言われたが僕の頭の中で行きたい所は三斗小屋温泉以外どこも浮かばなかった。

日曜当日、早朝から強い雨音が耳に障った。まさかこの中を出て行く気にはならず意を決して大黒屋旅館に電話しキャンセルを申し入れた。すると

「わかりました。ではお二人でキャンセル料13,000円掛かります。」

えっ?! 山小屋だから行けない場合はキャンセル料は掛からないと思っていたが

「すごい風で行けそうにないのですが、それでも掛かるんですか?」

「少しでも山歩きの経験のある方でしたら来れますよ」とケロッと言われた。

今日の風は6~7m、明日は15mの強風で、たとえ行けても帰れるのだろうか。しかし13,000円は惜しい。行けるなら行きたい。登山は抜きにして、三斗小屋温泉だけを目指すのであれば2時間ちょっとで行けないことはない。ええい、

「行きます!」

H麻は不安そうであったが、着いてみて無理そうだったら止めるということで了解してくれた。

ワイパーフル回転で東北道を走る。それが福島県に入り那須が近づくにつれて雨もおとなしくなってきた。

茶臼岳が近づいて来た時、H麻が「はあ…、はあ…」と荒い息をし出した。

「何だか緊張してきちゃった。」

路肩に車を停めると大丈夫とのこと。久しぶりの登山と風が気になっていたのだ。

峠の茶屋の駐車場に着くと目の前に紅葉した朝日岳と茶臼岳が見えていた。ほお、来てみて正解だったではないか。ところが雲が動き、辺りは真っ白になる。うっ…。そしてまた雲が動き山が見えてきた。やはり上空の風が強いのだ。



弱い雨が降っている中、13時に出発した。登山道は階段から始まるが、山の神を越えると山の道らしくなった。

ちょうど下りてきた人は茶臼と朝日に上ってきたそうだ。風はどうだったか聞くと「6～7mなんでそれほどでも無いですよ。70歳くらいの人も上ってましたよ。」

右手が開けると紅葉の斜面が見えた。緑色の部分は背の低い笹らしい。それに続く朝日岳からの斜面も紅葉がみごとだ。しかし行く手に峰の茶屋跡の小屋が見えてくるとガレた谷を境に樹木が無くなり荒々しい斜面に変わった。

ちょうど1時間で峰の茶屋跡に着いた。ここは風の通り道で風が強く吹きすさぶ。小屋の陰で休みを取った。すぐ横の登山道は朝日岳に続いている。先ほどの話しだと朝日岳まで行けないことはなさそうだ。どうかな。

「朝日岳、行かない？」と聞いてみた。

「行かない。…行きたければ一人で行って来てもいいよ。」

さすがにそれはできないよ。



三斗小屋温泉へはコルの反対側へ下りて行く。最初は下からあおってくる風が強かったが下るにつれて弱まり、左前方の山の端を見ると空が明るくなってきた。

峰の茶屋跡避難小屋に着いた時には陽が射し小屋の周りが陽だまりとなっていた。H麻が避難小屋のドアを開け中に入ろうとした。外に佇んでいた僕を振り返り

「ホリホリは小屋に関心無いの？」と聞いてきた。

「無いよ。関心あるのは朝日岳。」

H麻は呆れたように口を開けた。

避難小屋の先からは樹林の中となり風の影響は無い。いい散歩道だった。橋を渡り三斗小屋温泉へ向かって行く。

いつしか辺りが霧に包まれた。周りの黄色く色づいた葉の色が霧に反射して全体がぼやーっと黄色く見えた。

「なんか空気まで黄色っぽく見えるね。」

「何やらオナラの色かいな。」

「いやあーだあー。」

14:20、三斗小屋温泉に到着。来れたのだ。登山道を隔てて右に煙草屋旅館、左に大黒屋旅館が建っている。

大黒屋旅館の前で手袋を脱ごうとしたら雨と風で冷えたおかげで手がかじかんで外しにくかった。受付で出て来たのは電話で対応してくれたスタッフだった。

「背中を押してくれたおかげで何とか来れました」と言う

「みなさん天気の情報を見て来れないと思っても、来てみると思ったほどじゃないと言う人が多いんですよ。」

通された部屋は新館二階の四畳半の部屋で窓からは渡り廊下の先に本館が見える。さあ、何はともあれ温泉へ。1時間交代で男女入替制となっており、ちょうど女性が大風呂、男性が岩風呂の時間だった。岩風呂は岩で囲まれた二畳ほどの大きさでぬるめのお湯だった。いつまでも入っていられるような温度という言い方ができそうだが、風に吹かれてきた体にはもっと熱い湯が望まれた。独り占めだったのでまあいいか。

部屋に戻っているとだいぶ経ってからH麻が戻って来て「いいお風呂だったよ」と満足そう。湯船が2つあってちょうどいいのと熱いのがあるそうだ。「ストーブが千円で借りられるみたいだけど借りていい？」と聞かれ「千円か…。無くてもいいんじゃない」と答えたがH麻はストーブを借りに行った。我慢我慢の人生を過ごしてきた僕であったが、H麻の言う通りストーブは正解であった。

そうしている間に男女の入替時間がきて今度は大風呂へ。大風呂と言う通り広くてなるほど2つの湯船がある。奥が熱く、手前はちょうどいい具合だ。周りはガラス戸で外の景色も見える。造りといい風情といい間違いなくこの旅館の売りである。なるほどH麻がなかなか出てこなかったわけだ。

暗くなると窓の外に灯りの点いた本館が見えきれいだった。お膳で運ばれた夕食を食べ終わるとまた大風呂が男性の時間になった。行かないでいられるわけがない。

宮城から来たグループと広島からのツアー客と一緒に僕を含め9人で湯船はいっぱいになった。膝を抱き寄せるようにして温泉を味わう。広島からのツアーは昨日は筑波山に登り、今日は茶臼岳を経てここへ来たそうだ。明日は朝日岳を狙っているらしい。明日の風をみんな心配していた。

翌朝、窓の外を見ると大きな木が揺れていた。風は15～20mくらいだそうだ。宿の人に聞くと8時を過ぎれば弱まってくるらしい。遅めに出発することにしてしよう。

強風の中、安全なのは往路と同じように真っ直ぐ峰の茶屋跡を目指して峠の茶屋へ下りるコースだが、できれば牛ヶ首を経て茶臼岳の斜面をトラバースして峰の茶屋跡へと行くコースを取りたい。

階下で広島からのツアー客が集まりガイドさんが今日の行程を説明していた。牛ヶ首経由で峰の茶屋跡に出て、風次第で朝日岳へ行くか判断するそうだ。ツアーガイドも牛ヶ首経由を選択しているのでコース取りとしては大丈夫だろう。

8：30に旅館を出た。沼原分岐から牛ヶ首方面へ進んで行く。木々に囲まれ風の影響はまったく無い。右前方に西へ伸びる尾根が見えた。斜面が美しく紅葉している。その色はオレンジ色と茶色を混ぜ合わせたような落ち着いた色合いで、小学生の時に母が編んでくれたセーターの色を思い出させた。その頃はあまりその色がいいとは思えなくて、みんなが着ているような明るい原色の方がいいなと思っていたのだけれど今になってみるといい色だったんだなあ。

沼原・三斗小屋温泉分岐で一本取った。この先から風の影響が出てくるかもしれない。

尾根筋に出ると周囲の景色が見えるようになった。朝日岳から稜線が連なっている。紅葉を見つけては嬉しくなる。やはりこっちのルートを選んで良かった。

正面に茶臼岳も見えてきて10：15、ひょうたん池分岐に着いた。木道を歩いてひょうたん池の展望台に出る。風はあるが晴れ渡り、茶臼岳の荒々しい斜面とその下を囲む紅葉が広く眺められる。

「ここ座っちゃおうか」と台の上に座り込み持って来たピスタチオ味の豆菓子を食べながらのんびり景色を堪能した。



30分ほど休んで再び登山道に戻るとすぐ先が姥ヶ平でこの辺りの紅葉が見ごろだった。姥ヶ平の広場で休んでいる人が多かったが、我々はひょうたん池で長居したので足を止めずに辺りを見回しながら歩いて行く。

そして牛ヶ首への上りを歩き始める。紅葉の帯の上に頭を出した茶臼岳は城壁のようだ。次第に風が強くなってきた。



途中でえんじ色のワッチキャップを被った女子が風の中で休んでいて「下も風が強いですか？」と聞いてきた。姥ヶ平まで下れば大丈夫と答えるとお礼にとお菓子をくれた。茶臼岳まで上がったが倒れそうなほど風が強かったそうだ。

11:25、牛ヶ首に到着。ここからは風の強い中での山腹のトラバースとなる。H麻を先に歩かせ後から行くことにした。無間地獄の噴煙も風で横に押し付けられている。ガレた登山道の下方に姥ヶ平周辺の紅葉が俯瞰して見える。小さくくぼんで見えるひょうたん池が可愛い。

ようやく峰の茶屋跡の小屋が見えてきた。風にあおられながらあそこまで行けばと思いつながら下る。小屋に着くと軒下の風の当たらない所で一休み。温かいコーヒーを飲み行動食を食べた。

風に押されながら茶臼岳から下りてくる人が見えた。

「茶臼岳行ってみる？」とわざと聞いてみた。

「行かない。」

もちろん僕も行く気は無かったけれど。

峠の茶屋までの登山道を下って行くと途中からやっと風の影響が無くなった。後は快適に下って行く。

12:50、峠の茶屋の駐車場に戻ってきた。

「行って来れて良かったねえ。」

ピークハントは出来なかったけれど行きたかった三斗小屋温泉に行けたのだ。しばらく登山から離れていたH麻もこれで自信が持てたろう。

「(帰る途中の)鹿の湯寄ってく？」とH麻に聞かれたが

「いや、それより那須塩原まで行ってスープやきそばでも食べようよ。」

「どっちでもいいよ。」

もう頭の中はスープやきそばになっていた。

(H口記)